

認定特定非営利活動法人大阪自然史センター

2024年度事業報告

2024年1月1日～12月31日

I 事業実施報告

2024年度の定期総会も昨年に引き続き、オンラインで開催することといたしました。

2025年度は大阪自然史センターがNPO法人化して25年目、認定特定非営利活動法人となってから12年目の年となります。博物館は1950年に設置されて75年、友の会は1955年に発足して70周年の年となります。大阪市立自然史博物館と長年培ったパートナーシップを生かし、人も自然も生き生きできる社会を目指し、「～社会と自然と博物館をつなぐ～自然を見つめ、自然から学び、自然を楽しく伝え、自然を大切に思う気持ちを育む」というミッションのもと、2024年度も社員のみなさんのご理解と支えがあって、充実した事業を展開することができました。

「大阪自然史フェスティバル2024」は開始21年目の年でした。この間に築き上げたネットワークから数多くの団体、企業、地域グループのご参加によって出展ブースもコロナ前に戻り、22,500人（昨年19,000人）ものご来場をいただきました。

センターの基盤を強化するための寄付金募集では、友の会会員の普通会員から賛助会員への移行促進や、マンスリーサポーターの募集にも、多くの方々にご賛同いただきました。ご寄付のお申し出も順調に増え、多額の寄付者もあり、博物館コミュニティの賑やかな交流活動やインターンシップの受け入れなどに繋げることができました。収入の大きな柱となるよう、寄付金募集活動の充実を図るべく、関係団体機関との調整を図るとともに、日ごろから応援していただいているの方々にも、これからも一層のご支援をいただきたいと思っております。

2025年は社会経済情勢も気がかりではありますが、事務局体制も社会経済の流れを汲み、活力ある活動を支えられるような組織を築き、堅実な業務を継続する方針です。意欲にあふれたスタッフを維持・充実させてセンター活動を進めるには、博物館のユーザーコミュニティの深いご理解が不可欠と考えています。

意欲・経験・技能を併せ持つ社員の皆様には、友の会事業、普及教育事業、調査研究事業などに参画していただくなど、幅広くセンターの活動を支えていただきますよう、お願いいたします。

II 各事業について

1. 友の会事業

[内 容]

大阪市立自然史博物館友の会を組織し、会報 Nature Study 毎月の 12 回発行と月例ハイキングや友の会イベントなど自然観察行事等を 36 回計画し 30 回実施した。(6 回雨天・猛暑中止)

[場 所]

大阪市立自然史博物館および大阪府内など

[日 時]

2024 年通年

[対象者]

大阪市立自然史博物館友の会へ入会した市民等 1732 名(うち賛助会員 109 名)

2. ミュージアムサービス事業

[内 容]

大阪市立自然史博物館・花と緑と自然の情報センターへの来館・来場者に自然史科学の普及およびサービスを実施するため、大阪市から占用許可を受け、博物館の掲げる趣旨に沿って、自然史に関する書籍・自然観察道具やグッズ等を特別展示や各種イベント開催に合わせて販売。多くの博物館来館者に満足していただけるようサービスの提供に努めた。

また、各分野の学会や出張販売の機会があれば積極的に出展し、全国の書店やミュージアムショップへの委託・卸販売など、店舗の運営と平行させて事業展開を行った。「博物ふえす 2024」、「神保町ヴァンダーカンマー(東京)」、「いきもにあ」、「国際昆虫学会議(ICE2024 KYOTO)」、「日本鳥学会 2024」、「日本爬虫両棲類学会」など多数のイベントに参加。ネット販売にも力を入れ、多くの方々にご利用いただいた。

2024 年に企画した新商品は、トートバッグ「ウツボ 8 種」、トートバッグ「へび 8 種」、トートバッグ「ハマベウスバカゲロウ」、ロングタンブラー「ウツボ 8 種」「大阪湾の魚 10 種」、A3 エコバッグ「クスギ林の虫」・「植物の絵解き検索」、「ヒゲクジラ類・舌骨」マスキングテープ、マスキングテープ「瀬戸内海の自然・瀬戸内海の海浜植物」など。また、盛口 満氏の協力により「イリオモテヤマネコ」B6 リングノート、「イリオモテヤマネコ」サコッシュ、「イリオモテヤマネコ」マグカップを制作した。そのほかにも、「鳥へん T シャツ」や「虫へん T シャツ」などを多数リニューアル展開した。

[場 所]

大阪市立自然史博物館ほか各種学会・イベントなど

[日 時]

2024 年通年

[対象者]

一般来館者・各種学会・イベント参加者等

3. ボランティア事業

実施なし

4. 出版事業

[内 容]

自然史科学の書籍の発刊企画を行い、自然観察を通じて自然史科学の普及に努める準備をした。
マンガ版「マキコ団長の実録！自然史はくぶつかん」を増刷した。

5. 調査研究受託事業

[内 容]

自然史科学の振興発展のため貝塚市自然環境基本調査事業、能勢町標本活用等業務、けいはんな記念公園生物多様性調査等の委託業務等を受託・実施した。

[場 所]

大阪府内など

[日 時]

2024 年通年

6. 普及教育事業

[内 容]

自然史科学の普及教育のため「大阪自然史フェスティバル」等の各種イベント・事業のデザインやイラスト、チラシ・資料・看板等作成、剥製修復業務等、西宮市貝類館ワークショップ等企画及び運営支援やイオンショッピングセンターワークショップ、茨木市の「いばらきいきもの博」等を受託・実施した。また、博物館維持管理の一環として大阪市立自然史博物館子ども向けワークショップ業務や特別展のキッズマップ・キッズパネルの企画デザイン等を受託実施した。

[場 所]

大阪市立自然史博物館、大阪府内など

[日 時]

2024 年通年

7. 自然保護・自然環境保全に関する事業

関西自然保護機構

[内 容]

関西自然保護機構を組織し、会誌の発行、シンポジウムの開催、研究支援事業の実施、自然保護に関する提言、調査研究の受託、その他機構の目的を達成するために必要な事業を実施した。

[場 所]

大阪市立自然史博物館、大阪府内など

[日 時]

2024 年通年

8. 施設運営管理事業

高槻市立自然博物館の施設管理運営事業

[内 容]

自然史科学の振興普及および自然保護・自然環境の保全に関する体験施設の運営管理事業として、高槻市立自然博物館(前高槻市芥川緑地資料館)の施設管理運営事業を、地元の NPO 法人芥川倶楽部と大

阪自然史センターが共同で「あくあぴあ芥川共同活動体」を組織し、センターが主に人事経理総務部門を受け持ち、高槻市の仕様にに基づき施設の維持管理及び博物館運営に取り組んだ。

[場 所]

高槻市南平台 5-59-1 高槻市立自然博物館

[事業期間] 2022 年度から 2026 年度末まで

Ⅲ 社員総会の開催状況

[名 称] 2023 年度（第 23 期）第 24 回定期総会

[場 所] 大阪市立自然史博物館会議室本部 Zoom 会議

[日 時] 2024 年 2 月 3 日（土）午後 3 時 00 分～4 時 15 分

[出席者数] 44 名（社員総数 76 名 本人出席 28 名、委任状出席 16 名）

[内 容]

議 事

第 1 号議案. 2023 年度事業報告（事業報告書参照）

事務局から定款記載の事業を例年どおり実施したことが報告され、出席社員の賛成多数をもって 2023 年度事業報告を承認した。

第 2 号議案. 2023 年度収支決算報告（財産目録、貸借対照表、損益計算書、活動計算書参照）

事務局から決算内容が説明され、監事から監査報告があり、出席社員の賛成多数をもって 2023 年度決算を承認した。

第 3 号議案. 2024・2025 年度事業計画（事業計画書参照）

事務局から定款記載の事業を実施する旨の提案説明があり、出席社員の賛成多数をもって 2024・2025 年度事業計画を承認した。

第 4 号議案. 2024・2025 年度活動予算（活動予算書参照）

事務局から活動予算について提案説明し、出席社員の賛成多数をもって 2024・2025 年度予算を承認した。

第 5 号議案. 理事の去就について

木村（米澤）里美理事が 12 月 31 日付で退任の希望。理事会でこれを受理した。

新任の理事候補として、西澤真樹子氏と山中亜希子氏の 2 名を推薦し、その選任を議場に諮ったところ出席社員の賛成多数をもって理事に選任され、被選任者は、いずれもその就任を承諾した。

【報告事項】

事務局執行体制について

① 職員の状況について

新しく入った 2 名のスタッフ（神山・坂田）は担当事業に就きながら育成中。

4 月をめどにスタッフを若干名補充したい。

② 事務所狭隘対策について

事務所の狭隘対策として、賃貸物件（住吉区長居西 2 丁目）を契約した。

作業所兼倉庫として利活用を進める。

③ 認定 NPO 法人の更新について

認定 NPO 法人の資格が 2024 年 3 月 31 日で期間満了となるため、現在、大阪市に継続申請の手続きを行っている。現在、指摘事項について修正中。

次期の認定期間は 2024 年 3 月 31 日から 2029 年 3 月 30 日の 5 年間となる予定。

以上の議案について事務局より一部誤植を修正し、また、所轄庁の指示に基づき文言を修正することがある旨を説明し、出席社員の満場の一致をもって承認した。

議長は、以上をもって特定非営利活動法人大阪自然史センターの総会に関するすべての議事を終了した旨を述べ、閉会を宣した。

IV 理事会の開催状況

第 1 回理事会

[名 称] 2024 年度第 1 回理事会

[場 所] Zoom 会議(本部事務局)

[日 時] 2024 年 2 月 3 日 (土) 午後 1 時 00 分～2 時 40 分

[出席者数] 9 名 (総数 11 名 本人出席 8 名、議決権行使書 1 名)

[内 容]

議題 1 総会提出議案について(総会資料参照)

【議案】

第 1 号議案. 2023 年度事業報告

(事業報告書参照)

第 2 号議案. 2023 年度収支決算報告

(財産目録、貸借対照表、損益計算書、活動計算書参照)

第 3 号議案. 2024・2025 年度事業計画

(事業計画書参照)

第 4 号議案. 2024・2025 年度活動予算

(活動予算書参照)

第 5 号議案. 理事の去就について

【報告事項】

事務局執行体制について

- (1) 職員の状況について
- (2) 事務所狭隘対策について
- (3) 認定 NPO 法人の更新について 」

以上、事務局提案のとおり出席理事全員の一致で承認された。

第 2 回理事会

[名 称] 2024 年度第 2 回理事会

[場 所] Zoom 会議(本部事務局)

[日 時] 2024 年 3 月 23 日 (土) 午後 5 時 00 分～5 時 40 分

[出席者数] 13 名 (総数 13 名 本人出席 11 名、議決権行使書 2 名)

[内 容]

議 事

議題 1 事務局・執行体制及び職員処遇について

(1) 昇給について

昨今の物価上昇などを鑑み、職員・アルバイト共に日単価 100 円～800 円の範囲で昇給を決定。
昇給額は個別に査定する。

(2) 決算賞与

昨年度の業績が好調であったため、昨年度の事業に従事した全従業員を対象に特別賞与の支給を決定。支給額は個別に査定する。3/31 支給予定。

(3) 新規採用

あくあぴあに魚類担当の学芸員として桑原友春さん（男性・38 歳）を新規採用。

現在は島根県立宍道湖自然館ゴビウスで展示・企画推進・環境修復プロジェクトを担当の主任。魚類、水生昆虫、甲殻類など研究対象は複数。6 月より勤務予定。

センター要員としてワークショップスタッフの募集（職員）を行っているが、よい人材に巡り合えずに現在も採用活動中。

(4) 退職など

柴田さん（週 4 年次雇用）3 月末退職。

池田さん（週 4 臨時）3 月末でセンター雇用終了。

議題 2 2024 年度事業について

4/29（月祝）に活動報告会を博物館と合同で開催する。

「持続可能な博物館のためのお金の話：クラファンだけじゃない長期サポーターの集め方」博物館周りでもクラウドファンディングが話題になっていますが、寄附を集める方法はクラファンだけではありません。博物館が長く活動するためには、長期にわたるサポートが必要です。そのために私たちは何をすべきなのか、外部講師もお招きした上で考えてみたい。

議題 3 弔慰金の支出について

昨年末に亡くなられた花崎さんのご家族への弔慰金(30 万円)をお渡しする。センターの規定はないが、理事会決裁とする。

報告 監督官庁への諸届け出事務について

大阪府・大阪市への年度末の届け出書類は全て提出済み。

認定 NPO 法人の有効期間更新申請が受理された。

自 令和 6 年 3 月 31 日 至 令和 11 年 3 月 30 日

その他

大阪市立長居植物園と大阪市立自然史博物館は、今年 50 周年を迎え令和 6 年度を通じてシンポジウムや記念展示など各種イベントが行われる。

以上、事務局提案のとおり出席理事全員の一致で承認された。

第 3 回理事会

[名 称] 2023 年度第 3 回理事会

[場 所] Zoom 会議

[日 時] 2024年8月18日(日)午後4時30分～17時30分

[出席者数] 9名 (総数13名 本人出席7名、議決権行使書2名)

[内 容]

議 事

議題1 2024年度上半期事業の進捗について

(1)ミュージアムサービス事業

特別展「ネコ」7/13(土)～9/23(月祝)で開催中。猛暑の影響で来館者に繋がりにくいが、来場者の反応はよく客単価も高い。企画に合わせたオリジナルグッズとして盛口満氏のイリオモテヤマネコのイラストレーションを使用したTシャツ、サコッシュ(バッグ)、マグカップ、リングノートを作成。

出張ショップでは、博物ふえすていばる、神保町ウンダーカンマーに出展。今後、国際昆虫学会(ICE2024)、日本鳥学会、いきもにあ等の出張を予定。

(2)普及教育事業

自然史博物館子どもワークショップでは、特別展「ネコ」に合わせ、野生ネコ(主にイリオモテヤマネコ、ツシマヤマネコ)の特徴や生態が学べるプログラムを企画実施。8/25には文化庁の取材協力を予定している。

西宮貝類館ワークショップでは、貝類館の協力を得て実施しているワークショップが好評を得ている。今後、小さな貝の名前を調べるワークショップや夙川河口の生きもの観察会の補助を予定。

大阪自然史フェスティバルは11/16(土)～17(日)に開催を予定。7月末で出展募集を締切った。申し込み総数125団体。内訳としては、協賛5社、販売45団体、一般75団体。メイン講演会は鳥類学者の川上和人氏をお招きして小笠原の自然や生きもの生態についてお話しいただく予定。

(3)管理運営事業ほか

高槻市立自然博物館では30周年を記念し、企画展「あくあぴあと私～30年間の足あと～」を開催。開催期間は10/5(土)～2025年1/26(日)。指定管理会計の会計監査は9/21(土)11時から。

「活動報告会2024」を4/29(月祝)に自然史博物館と共催。博物館界の寄付・ファンディングを大テーマに設定し、講師に木村真樹氏(合同会社めぐる)をお招きして「持続可能な博物館のためのお金の話：クラファンだけじゃない長期サポーターの集め方」の演目でお話しいただいた。

議題2 事務執行状況について

(1)事務局体制・職員の状況

1. センター(長居)

ショップ事業担当の橋高加奈子(臨時職員)が体調の不具合で4月から休みを取得していたが、医師と相談の上7月末で退職。4月以降ショップ事業は川上がサポートに入り坂田と二名体制で事業推進にあたっている。

人手不足や後進の育成を目的とした募集をおこなっているが、マッチする人材を確保できない

状況が続いている。

2. 高槻市立自然博物館（あくあびあ）

故花崎氏の後任として、6/1付で桑原友春が魚類担当学芸員として着任（週5日勤務・年次雇用職員）した。花崎氏の専門分野を引継ぎ、施設管理や調査研究、普及行事にあたる。

総括学芸員の高田みちよから休職の希望が出ている。8/26（木）から有休を消化し、以降は休職を希望。原因は職場内のコミュニケーション不全が発端と思われるが、芥川倶楽部や運営委員会を通じて今後の人事にあたる。現時点では、現場のマネージメントを担う事務担当を採用し、学芸員の補充と双方を望む声が多数を占める。

(2) 給与等の支給について

上半期の業績を鑑み6月給与の支給を実施した。支給率は就業規則の通り。

議題3 次年度理事更新について

2025年度は役員改選の年。現在、理事13名、監事2名。定款上の役員設置は17名なので、次回改選までに役員体制について検討する。

以上、事務局提案のとおり出席理事全員の一致で承認された。

次回の理事会は2024年12月21日（土）17時からを予定。

第4回理事会

[名称] 2024年度第4回理事会

[場所] Zoom会議室

[日時] 2024年12月21日（土）午後5時00分～6時00分

[出席者数] 13名（総数13名 本人出席 11名、議決権行使書 2名）

[内容]

議事

議題1 2024年度決算見込・2025年度予算案について

2024年度は受託事業やミュージアムサービス事業も好調で黒字決算を見込んでいる。2025年度についても同等の事業展開が見込まれるので、2024年とほぼ同じ予算案を作成予定。待遇面では、昨今の物価上昇や世相を鑑み、可能な限りの昇給を検討し、特に日常的に事業推進に従事・貢献している職員の所得増を目指したい。

(1) ミュージアムサービス事業

春の特別展「イラストレーション」、夏の特別展「ネコ」などで来館者に利用していただく機会も多く、企画したオリジナルグッズや仕入れ商品の売り上げも好調の一年であった。昨年の売り上げには及ばないが、2022年と同等の売り上げを見込んでいる。

出張ショップも多数の出張先に出かけたが、今後は反応のよいイベントを見極めて出展していくように事前検討を十分に行うようにしたい。

(2)普及教育事業

自然史博物館子どもワークショップでは、大学生のサポートスタッフの一年の集大成となる「子どもまつり」に向けて準備を進めている。

西宮貝類館ワークショップでは、貝類館の協力を得て実施しているワークショップが好評を得ている。2025年度は現契約のプロポーザル期間の最終年なので次期に向けて西宮市と調整を図っていく。

大阪自然史フェスティバルは11/16(土)～17(日)に無事終了した。今後は隔年開催で実施していくことを博物館と協議のうえで決定し、協賛企業や出展者にも周知した。

(3)管理運営事業ほか

高槻市立自然博物館では、開館30周年を記念した「あくあびあの思い出展」を開催中。地域の方々にも協力していただき、これまでの履歴を振り返る展示構成となっている。高熱水道費が嵩み予算より多く発生する見込みである。高槻市公園課により、3月補正で予算要求が行われる予定。

2024年も多くの方々の賛同を得てご寄付をいただいた。遺贈寄付の取り組みを進めるため、自然史センター、学芸員、友の会、博物館の有志で構成されるワーキンググループが発足し、1回目のミーティングは1月初旬を予定している。

議題2 事務執行状況について

(1)事務局体制・職員の状況

高槻市立自然博物館（あくあびあ）

総括学芸員の高田みちよが12/31付で退職。新しく現場のマネジメントを担う事務担当を採用し、学芸員の補充と合わせて体制を整えていく。

(2)給与等の支給について

下半期の業績を鑑み12月賞与の支給を実施した。支給率は就業規則の通り。

議題3 次期の役員の改選について

2025年度は役員改選の年。現在、理事13名、監事2名。定款上の理事の定数は9～15名なので次回改選までに役員体制について検討する。現役員については留任をお願いする。

その他

2025年度は、博物館75周年・友の会70周年の節目の年となる。4月末の活動報告会や秋に予定されている関連企画にて取り上げていく。記念誌の制作、Nature Studyの別冊刊行などの案が出ているが、関係者で検討を進めたい。

以上、事務局提案のとおり出席理事全員の一致で承認された。

友の会評議員会 2025年1月26日(日)

大阪自然史センター総会 2025年2月1日(土)